

TV サラウンドシステム

SRT-700

取扱説明書



ご使用前に本書の「安全上のご注意」(20～22ページ)を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

本書は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

保証書別添付

目次

付属品を確認する	2
本製品でできること	3
よくあるご質問	3
本機の各部名称	4
設置する	5
接続する	6
操作する	8
Bluetooth 機器の音楽を聴く	10
設定する	12
テレビのリモコンで本機を操作できるようにする (テレビリモコン学習機能)	12
自動スタンバイ機能を設定する	14
初期設定に戻す	14
困ったときは	15
主な仕様	18
安全上のご注意	20

本書の記載について**ポイント**

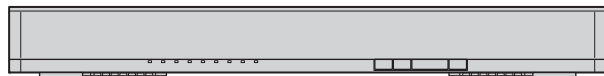
使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

ヒント

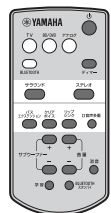
知っておくと便利な補足情報が記載されています。

付属品を確認する

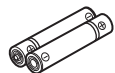
すべて揃っていることをお確かめください。



本機



リモコン



単4乾電池 (2本)



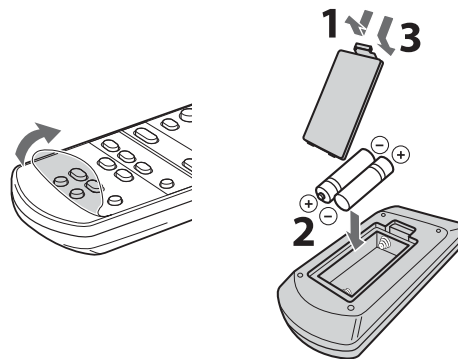
光ファイバーケーブル (1.5m)



取扱説明書
(本書)

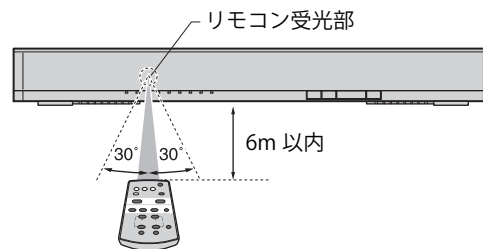
◆ リモコンの準備

保護シートは、はがしてお使いください。



◆ リモコンの操作範囲

本機のリモコン受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



本製品でできること

本製品は簡単な設置、接続で迫力のサウンドをお楽しみいただけるホームシアターシステムです。

● AIR SURROUND XTREME (エア・サラウンド・エクストリーム)

前方だけでなく左右や後方にもスピーカーを設置しているかのような、広がり
と定位感に優れた 7.1ch サラウンド再生をお楽しみいただけます (9 ページ)。

● バスエクステンション

ヤマハ独自の低音増強技術「Advanced Bass Extension Processing」により、迫
力のある音を再現します (9 ページ)。

● Bluetooth® 接続 Bluetooth®

Bluetooth 対応のスマートフォンやタブレット、パソコンなどの音声を手軽に再
生できます (10 ページ)。

音声は独自の音質特性改善技術「ミュージックエンハンサー」により、圧縮前
の音源が持つ 深みや瑞瑞しさをお楽しみいただけます。

● HOME THEATER CONTROLLER

専用コントロールアプリ「HOME THEATER CONTROLLER」をお使いのスマー
トフォンにインストールすることで、さらに快適に操作できます。

● テレビリモコン学習機能

テレビのリモコンを使って、本機の電源や音量を操作できます
(12 ページ)。

● クリアボイス

人の声 (セリフやアナウンスなど) を聞き取りやすくなります (9 ページ)。

よくあるご質問

本機がよく使われる機能や、よくあるご質問について説明します。

Q1 テレビのリモコンで本機を操作することはできますか。テレビのリ
モコンと本機のリモコンを持ち替えるのは不便です。

A1 はい。「テレビリモコン学習機能」を使えば、お使いのテレビのリモ
コンで本機も操作することができます (12 ページ)。

本機能は、赤外線方式のリモコンのみに対応しています。テレビのリモコン
方式をお確かめの上、お使いください。

Q2 テレビの話し声を聞き取りやすくなりますか。

A2 はい。「クリアボイス機能」を使うと、映画やドラマのセリフ、ニュー
スやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなり
ます (9 ページ)。

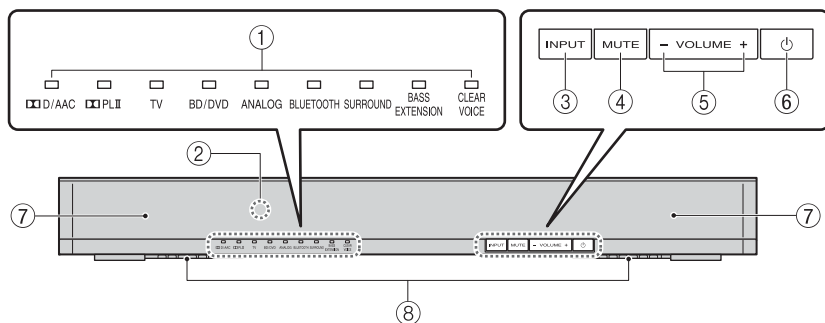
Q3 スマートフォンで本機を操作することはできますか。また、スマー
トフォンから本機の電源を操作することはできますか。

A3 はい。専用コントロールアプリ「HOME THEATER CONTROLLER」を使
えば、スマートフォンで本機を操作することができます (11 ページ)。
ご使用の際には、本機とスマートフォンを Bluetooth で接続する必要
があります。

また、本機の Bluetooth スタンバイモード機能を使えば、お使いのス
マートフォンを本機に Bluetooth で接続すると本機の電源がオンにな
り、接続を切ると電源をオフにすることができます (11 ページ)。

本機の各部名称

◆ 本機前面



① ランプ

本機の状態を表示します。
ランプの主な機能については、「操作する」(8～9ページ)をご覧ください。

② リモコン受光部

本機のリモコンの赤外線信号を受信します(2ページ)。

③ INPUT (入力切換) ボタン

再生する機器を選びます(8ページ)。

④ MUTE (消音) ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します(9ページ)。

⑤ VOLUME (ボリューム) (+/-) ボタン

音量を調節します(8ページ)。

⑥ 電源 ボタン

本機の電源をオン/オフします(9ページ)。

ヒント

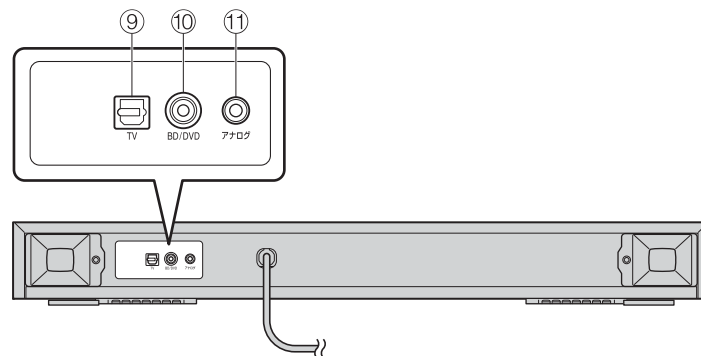
・自動スタンバイ機能を有効にすると、自動的に電源を切ることができます(14ページ)。

⑦ スピーカー

⑧ 内蔵サブウーファー

サブウーファーは本機の底部に内蔵されています。

◆ 本機背面



⑨ TV 入力端子

光ファイバーケーブルを使ってテレビを接続します(6ページ)。

⑩ BD/DVD 入力端子

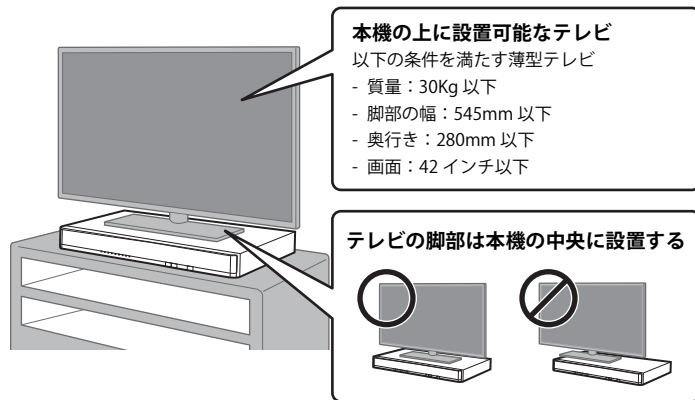
同軸デジタルケーブルを使って、ブルーレイディスクレコーダー(以下、BDレコーダー)などの再生機器を接続します(7ページ)。

⑪ アナログ入力端子

3.5mmステレオミニプラグケーブルを使って外部機器を接続します(7ページ)。

設置する

本機をテレビ台の上などに設置し、その上にテレビを設置します。

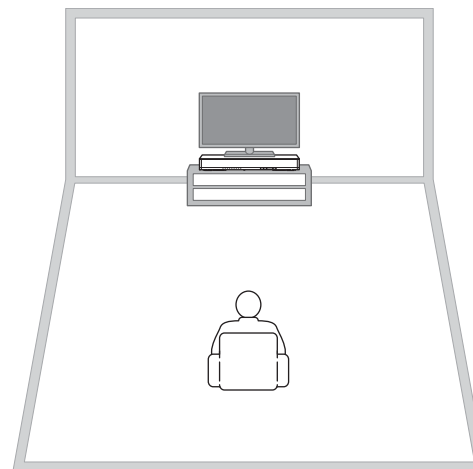


ご注意

- ブラウン管テレビは設置できません。
- テレビの脚部が大きすぎる場合は、本機をオープンラックなどに設置してください。その場合は、本機の周りに十分なスペースが確保できる通気性のよい棚に設置し、本機の内部に熱がこもらないようにしてください。
- 本機がテレビ台からはみ出さないように設置してください。
- 本機の上にテレビ以外のものを置かないでください。BD レコーダーなどを置くと、振動により機器が故障したり、テレビの設置が不安定になります。また、硬いものを置くと、本機にすり傷などがつく恐れがあります。
- テレビの転倒防止ワイヤーや金具は本機には絶対に取り付けしないでください。地震などにより、テレビとともに本機がラックから落下する恐れがあります。お手持ちのテレビの取扱説明書をよく読み、指示に従って壁面や丈夫なものにテレビを固定してください。
- 本機は非防磁のスピーカーを搭載しています。故障の原因となりますので、ハードディスクドライブなどを本機の上や近くに設置しないでください。
- 本機と外部機器（テレビなど）の接続を考慮のうえ設置場所を決めてください。

◆ より良いサラウンド効果を得るには

以下のポイントを参考に設置すると、より良いサラウンド効果を楽しめます。



- 本機から 2 m 以上離れた位置で視聴してください。
- 視聴する位置が本機の正面になるように設置してください。

接続する

テレビ（または、周辺機器）と本機を接続します。

ご注意

- 本機の電源コードをコンセントから外した状態で接続を始めてください。
- ケーブルプラグを端子に差し込む際に、強い衝撃を与えないようにしてください。破損の原因になります。

1 光ファイバーケーブル（付属）でテレビと本機を接続する。

光ファイバーケーブルのキャップを取り、向きを確認して差し込みます。



2 本機の電源コードをコンセントに接続する。

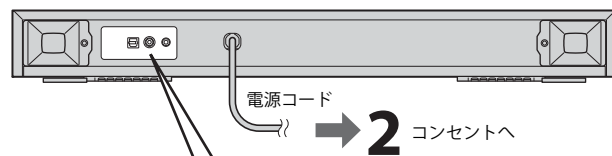
3 テレビを次のように設定する。

- 音量を最小にする。
- テレビ内蔵スピーカーの音声出力を無効にする。（設定可能な場合）

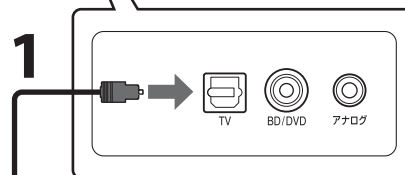
ヒント

- 手順 3 でテレビの内蔵スピーカーの音量設定がない場合は、ヘッドホン/イヤホン端子にヘッドフォンや変換プラグなどを接続することで、内蔵スピーカーの音声出力をオフできる場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- TV、BD/DVD 端子は以下の音声信号に対応しています。
 - PCM (2ch)
 - Dolby Digital (5.1ch まで)
 - MPEG2 AAC (5.1ch まで)

本機（背面）

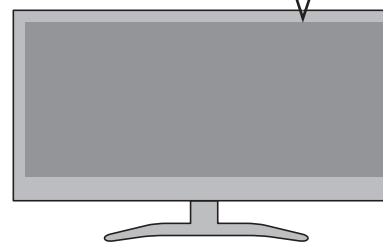


1

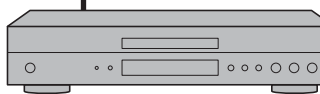


光ファイバーケーブル

3



HDMI ケーブルなど



再生機器（BD レコーダーなど）

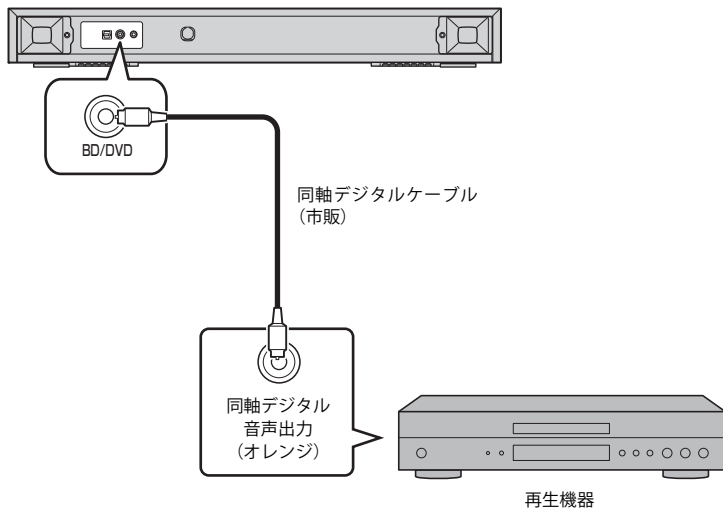
ヒント

以下の場合、本機の BD/DVD 端子と再生機器の同軸デジタル音声出力端子を、同軸デジタルケーブル（市販）で接続してください。リモコンの入力ボタンは、「BD/DVD」を選んでください。

- テレビに光デジタル音声出力端子がない
- テレビに接続した再生機器の音が出ない、または小さい
- テレビに接続した再生機器の音声がサラウンドにならない

外部機器のデジタル接続

DVD プレーヤーなど、同軸デジタル音声出力がある機器を、本機の BD/DVD 端子に接続します。

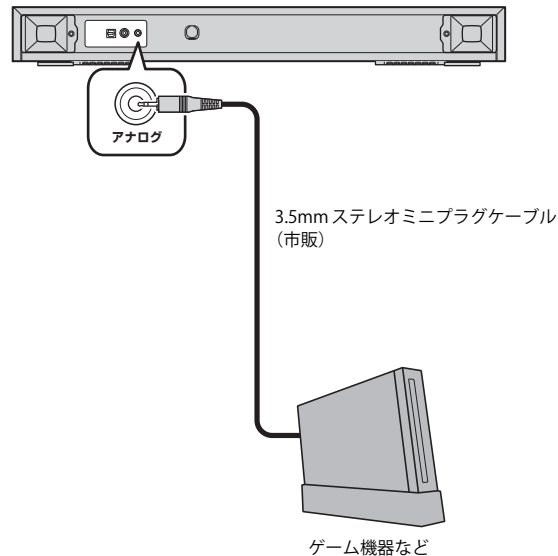


ポイント

- ・ リモコンの入力ボタンは、「BD/DVD」を選んでください。

ゲーム機器などのアナログ接続

デジタル音声出力端子がないテレビや、ゲーム機器などの外部機器を、本機のアナログ端子に接続します。



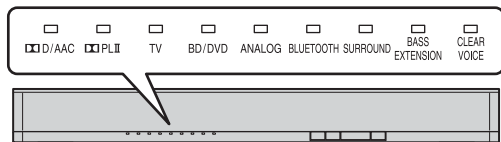
ポイント

- ・ リモコンの入力ボタンは、「アナログ」を選んでください。
- ・ 本機のアナログ端子に接続した機器側で音量調節ができる場合は、本機の TV 端子や BD/DVD 端子に接続した機器と同程度の音量になるように調節してください。

操作する

◆ ランプの表示

本機前面のランプが点滅 / 点灯することで、操作や設定状況を示します。



本書では、ランプ9個が並んだイラストを使って説明しています。

- : 消灯
- : 点灯
- ☼ : 点滅

(例：PIIランプとSURROUNDランプが点滅し、TVランプが点灯する場合)



1 入力ボタン

再生する音声ソースを選びます。

- TV ボタン テレビの音声
- BD/DVD ボタン BD / DVD 端子に接続した機器の音声
- アナログボタン アナログ端子に接続した機器の音声
- BLUETOOTH ボタン Bluetooth 機器の音声

選んだ音声ソースのランプが点灯します。

(例：TV 選択時)



ヒント

- ・ テレビに接続した再生機器の音声や映像を視聴する場合は、テレビ側の入力切替で再生機器を選んでください。
- ・ Bluetooth の使用については、「Bluetooth 機器の音楽を聴く」(10 ページ) をご覧ください。

2 サブウーファーボタン (+ / -)

サブウーファースの音量を調節します。



音量ボタン (+ / -)

本機の音量を調節します。



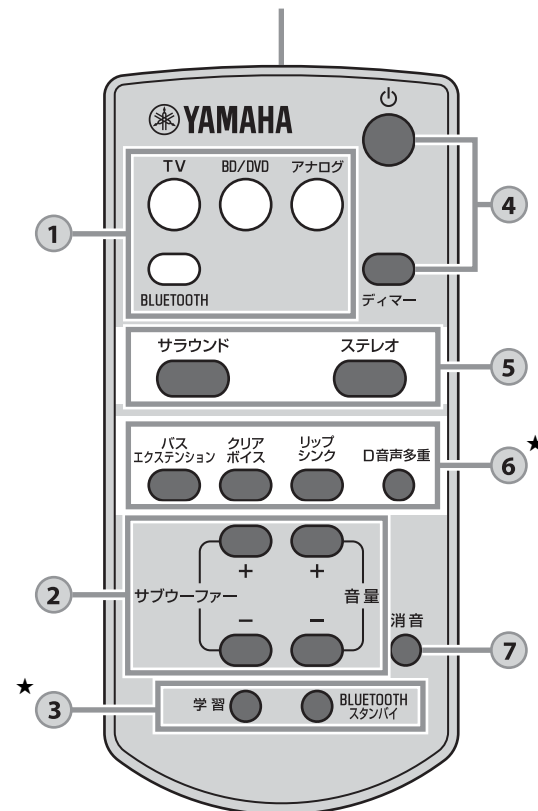
学習ボタン★

テレビリモコン学習機能を設定します (12 ページ)。

★ : 3 秒以上押して設定するボタン
学習、BLUETOOTH スタンバイ、リップシンクボタン

リモコン信号送信部

赤外線信号を送信します。



3 BLUETOOTH スタンバイボタン★

Bluetooth スタンバイモードの有効 / 無効を切り換えます (11 ページ)。

4

⏻ (電源) ボタン

本機の電源をオン/オフします。

電源オン



選んだ音声ソースのランプが点灯 (緑)

Bluetooth スタンバイ状態 (11 ページ)



点灯 (赤)

電源オフ



ディマーボタン

ランプの明るさを切り換えます。ボタンを押すたびに、ランプの状態が以下のように切り替わります。

暗い (初期設定) → 消灯 → 明るい



操作直後は明るくなり、数秒間経過すると設定した明るさになります。


5

サラウンドボタン/ステレオボタン


サラウンド再生、ステレオ再生 (2ch ステレオ) を切り換えます。


サラウンド再生を選ぶと、ヤマハ音場創生技術 AIR SURROUND XTREME (エア・サラウンド・エクストリーム) により、臨場感のある音響効果を楽しむことができます。

サラウンドボタン・・・  点灯 (サラウンド再生)

ステレオボタン・・・  消灯 (ステレオ再生)

ヒント


- 2ch ステレオ信号をサラウンドで再生しているときは、 PLII ランプが点灯します。


 点灯 (ドルビープロロジック II)

- 専用の無料アプリケーション「HOME THEATER CONTROLLER」を Bluetooth 対応のスマートフォンなどにダウンロードすると、サラウンドモード (TV 番組 / 映画 / 音楽 / スポーツ / ゲーム) を選択することができます。

バスエクステンションボタン


バスエクステンション機能の有効 / 無効を切り換えます。バスエクステンションを使用すると、ヤマハ独自の低音増強技術「Advanced Bass Extension Processing」により、迫力のある音を楽しむことができます。


 点灯 (有効)

 消灯 (無効)

クリアボイスボタン

クリアボイス機能の有効 / 無効を切り換えます。クリアボイスを使用すると、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります。

 点灯 (有効)

 消灯 (無効)

リップシンクボタン★

映像が音声よりも遅れている場合に、映像を見ながら音 (セリフなど) が口の動きに一致するように調整します。以下の手順で調整してください。

1 リップシンクボタンを 3 秒以上押す。

リップシンク調整モードになり、左端のランプが点滅します。



2 サブウーファーボタン (+ / -) で音声の出力タイミングを調整する。

サブウーファー (+) ボタンを押すと音声が遅くなります。



3 調整が終わったら、リップシンクボタンを押す。

ヒント

- 最後の操作から 20 秒経過すると、自動的に調整モードが終了します。

6

D 音声多重ボタン

地上デジタル/BS デジタル放送 (モノラル多重音声) の主音声 / 副音声を切り換えます。ボタン操作時に点滅するランプの位置で、選択中の音声を確認できます。

主音声



副音声



主音声 + 副音声



7


消音ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します。



◆ デコーダー表示

本機は以下の音声信号に対応しています。本機に音声が入力されているときは、ランプの色で信号の種類を確認できます。

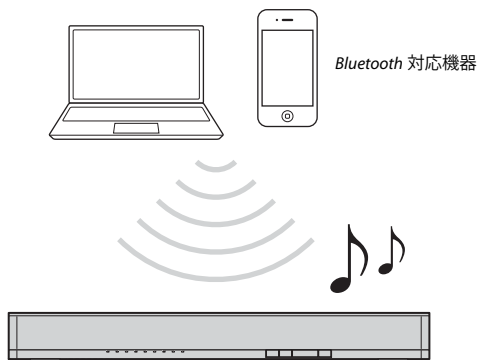
 緑 (ドルビーデジタル)、オレンジ (MPEG2 AAC)

 消灯 (PCM)

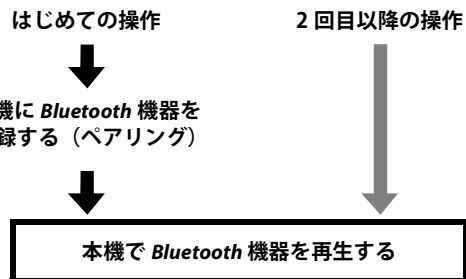
Bluetooth 機器の音楽を聴く

スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth に対応した機器の音声を、ワイヤレスで再生することができます。

ご使用の際には、Bluetooth 対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



Bluetooth 対応機器を本機で楽しむには、以下の流れで操作してください。



本機に Bluetooth 機器を登録する (ペアリング)

はじめて接続するときは、Bluetooth 対応機器を本機に登録します。これを「ペアリング」といいます。ペアリングはお使いになる Bluetooth 機器ごとに必要です。一度ペアリングが完了した機器は、再びペアリングをする必要はありません。

1 本機のリモコンのBLUETOOTHボタンを押し、入力をBluetoothに切り換える。

本機の BLUETOOTH ランプが点滅します。

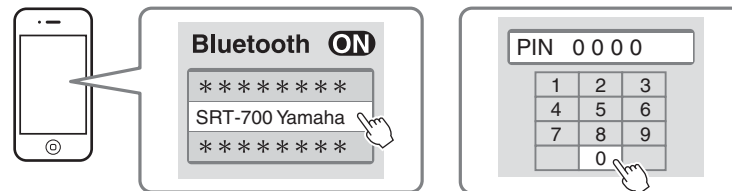



2 対応機器側の Bluetooth 機能をオンにして、ペアリング操作を行う。

対応機器により操作は異なります。お使いの機器の取扱説明書をご確認ください。

3 対応機器側で Bluetooth リストが表示されたら、「SRT-700 Yamaha」を選ぶ。

パスキー (PIN) の入力が必要な対応機器は、数字の「0000」を入力します。



対応機器側に 、または接続完了メッセージが表示されたら、ペアリングは完了です。

ポイント

- ペアリングは、本機と対応機器の距離が 10m の範囲内で行ってください。
- 本機は最大 8 台の対応機器とペアリングできます。9 台目の対応機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
- ペアリング情報が削除された場合には、再度ペアリングを行う必要があります。
- 別の Bluetooth 対応機器が接続されている場合は、接続中の機器をいったん切断してから (11 ページ)、ペアリングを行ってください。
- ペアリングができない場合は、「困ったときは」の「Bluetooth」(17 ページ) をご覧ください。

本機で Bluetooth 機器を再生する

1 電源オンの状態で、本機のリモコンの BLUETOOTH ボタンを押し、入力を Bluetooth に切り換える。

本機の BLUETOOTH ランプが点滅します。

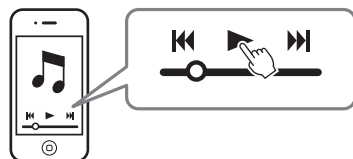


2 対応機器側の Bluetooth 機能をオンにして接続する。

Bluetooth が正常に接続されると、本機の BLUETOOTH ランプが点灯します。



3 対応機器側で曲を再生する。



ポイント

- Bluetooth 接続は、本機から 10m の範囲以内で操作してください。
- 必要に応じて、対応機器側の Bluetooth 接続リストから「SRT-700 Yamaha」を再度選んでください。お使いの機器によっては、音声の出力先として本機を設定する必要があります。
- 必要に応じて、対応機器側の音量を調整してください。
- 別の Bluetooth 対応機器が接続されている場合は、接続中の機器をいったん切断してから接続してください。

Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、Bluetooth 接続が切断されます。電源がオンの状態で Bluetooth 接続が切断されると、BLUETOOTH ランプが点灯から点滅に変わり、接続待ちの状態になります。

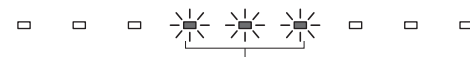
- 対応機器側で Bluetooth 機能をオフにする。
- 本機のリモコンの BLUETOOTH ボタンを 3 秒以上押す。
- 本機の電源をオフにする。

Bluetooth スタンバイモードを利用する

Bluetooth スタンバイモードを使うと、対応機器側の Bluetooth 操作に連動して自動的に本機の電源をオン / オフすることができます。

1 電源オンの状態で、本機のリモコンの BLUETOOTH スタンバイボタンを 3 秒以上押す。

BLUETOOTH スタンバイボタンを 3 秒押すごとに、有効 / 無効に設定が切り替わります。



3 回点滅 (有効に設定時)、1 回点滅 (無効に設定時)

Bluetooth スタンバイモードを有効に設定すると、本機の電源をオフにしたときに、 D/AAC ランプが赤色に点灯します (Bluetooth スタンバイ状態)。



Bluetooth スタンバイモードが有効のとき、対応機器側からの電源連動は以下のように機能します。

電源オン連動 (本機が電源オフの状態)

対応機器側で本機に Bluetooth 接続すると、本機の電源もオンになり、すぐに Bluetooth 機器の音声を再生できる状態になります。

電源オフ連動 (本機が電源オンの状態)

対応機器側で本機の Bluetooth 接続を切断すると、本機の電源もオフになります (入力が BLUETOOTH のときのみ)。

アプリで便利に使いこなす

専用の無料アプリケーション「HOME THEATER CONTROLLER」を Bluetooth 対応のスマートフォンなどにダウンロードすると、端末機器から本機をより便利に操作することができます。(設定項目：基本操作、サラウンドモード、音質設定など)

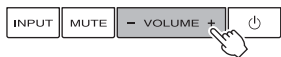
ポイント

- アプリを使用するには、本機と端末機器を Bluetooth で接続してください。
- 本機の Bluetooth スタンバイモードを有効にすると、端末機器から本機の電源をオンにすることができます。

「HOME THEATER CONTROLLER」の詳細については、弊社ウェブサイトの製品情報をご確認ください。

6 テレビのリモコンの音量 (+) 信号を学習させる。

6-1 本機前面の VOLUME (+) ボタンを押す。



6-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの音量 (+) ボタンを1秒以上押し続けて離す操作を2～3回繰り返す。

結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	
学習失敗 ※6-1からやり直し てください。	ブザー	

7 テレビのリモコンの電源信号を学習させる。

7-1 本機前面の (電源) ボタンを押す。



7-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの電源ボタンを1秒以上押し続けて離す操作を2～3回繰り返す。

結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	
学習失敗 ※7-1からやり直し てください。	ブザー	

8 学習が終わったら、本機のリモコンの学習ボタンを押す。

これで設定完了です。テレビのリモコンの消音ボタンや音量ボタン、電源ボタンで本機を操作できます。

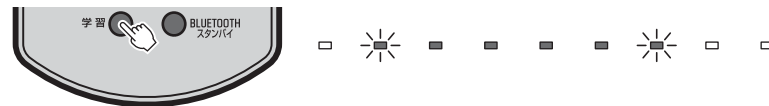
ヒント

- ・無操作のまま5分経過すると、自動的に学習モードが終了します。
- ・テレビの音量を最小に設定してお使いください。テレビのリモコンで本機の音量を上げると、テレビの音量も上がってしまう場合があります。その場合は、「接続する」(6ページ)の手順3に従ってテレビを設定してください。
- ・本機のリモコンの (電源) ボタンを押して、設定を完了することもできます。

学習させた機能をすべて消去する

1 電源オフの状態、本機のリモコンの学習ボタンを3秒以上押し、学習モードに入る。

学習モード中は、本機前面のランプが以下のように点滅します。



2 本機前面の INPUT ボタンを3秒以上押す。

学習した機能のランプが消灯し、以下のようにランプが点滅します。



消去が完了すると、音が3回鳴ります。

3 本機のリモコンの学習ボタンを押す。

自動スタンバイ機能を設定する

自動スタンバイ機能を有効にすると、本機を使用していない時やテレビを見ながら眠ってしまったときの電源の切り忘れを防止できます。

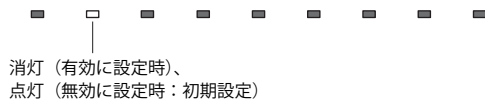
ポイント

- 自動スタンバイ機能を有効に設定した場合、以下のときに自動的に電源を切ります。
 - 操作がない状態で8時間経過
 - BLUETOOTHが入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で20分経過

1 電源オフの状態、本機のリモコンの消音ボタンを3秒以上押して、自動スタンバイ機能を有効/無効にする。

本機の電源をオンにした直後の数秒間、本機前面のランプの状態で自動スタンバイ機能の設定状態を確認できます。

消音



初期設定に戻す

本機の設定をすべて初期状態に戻します。

1 本機の電源をオフにする。

2 本機前面の ⏻ （電源）ボタンを3秒以上押す。



点滅（初期化完了）

困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店、または巻末の「お問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

最初に以下の点を確認してください。

- ① 本機、テレビ、再生機器（BDレコーダーなど）の電源プラグがACコンセントにしっかりと接続されている。
- ② 本機、テレビ、再生機器（BDレコーダーなど）の電源が入っている。
- ③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

◆ 電源 / 動作全般

症状	原因	対策
電源が突然切れる	自動スタンバイ機能により電源が切れた。 自動スタンバイ機能が有効に設定されていて、以下のいずれかの条件の場合、自動的に電源が切れます。 - 操作がない状態で8時間経過 - BLUETOOTHが入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で20分経過	もう一度電源を入れてください。自動的に電源が切れないようにする場合は、自動スタンバイ機能を無効に設定してください（14ページ）。
	保護回路が作動した。（本機前面のD/AACランプが点滅します。）	接続が正しいことを確認した後で、もう一度電源を入れてください。 たびたび電源が突然切れる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。
	Bluetoothスタンバイが有効なとき、Bluetooth機器の接続を切った。	Bluetoothスタンバイを無効にしてください（11ページ）。
電源が入らない	保護回路が3回続けて作動した。（この状態で電源を入れようとすると、本機前面のD/AACランプが点滅します。）	製品保護のため、電源が入らなくなります。電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。
電源がオンの状態で、ランプがすべて消灯してしまう（電源オフの表示に思える）	ディマーボタンの設定で消灯が選択されている。	ディマーボタンを操作し、好みの明るさを選択してください（9ページ）。

本機が正常に動作しない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本機前面の（電源）ボタンを10秒以上押し再起動してください。（それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。）
操作をしていないのに本機が動作する	近くで、別のBluetooth対応機器が使用されている。	Bluetooth接続を切断してください（11ページ）。
「HOME THEATER CONTROLLER」（アプリ）から操作できない（アプリの画面がデモモードから移行しない）	アプリをインストールしたBluetooth機器と本機が接続されていない。	Bluetooth機器と本機をBluetoothで接続してご利用ください。

◆ 音声

症状	原因	対策
音が出ない	再生したい入力選ばれていない。	正しい入力を選んでください（8ページ）。
	消音されている。	消音を解除してください（9ページ）。
	音量が小さい。	音量を上げてください（8ページ）。
	本機の電源コードがしっかりと接続されていない。	本機の電源コードが正しくコンセントに接続されていることを確認してください（6ページ）。
	入力端子同士を接続している。	本機の入力端子と外部再生機器の出力端子を接続してください。
サブウーファーから音が出ない	本機が再生できない信号が入力されている。	再生機器側のデジタル音声出力設定をPCM、MPEG2 AACまたはDolby Digitalに変更してください。
	サブウーファアの音量が小さい。	サブウーファアの音量を上げてください（8ページ）。
	再生している音声にサブウーファーチャンネルの信号や低音信号が含まれていない。	サブウーファーチャンネルの信号が含まれているソフトを再生して、サブウーファーから音が出ることを確認ください。

電源を入れ直すと音量が下がる	音量自動調節機能により音量が下がった。 (突然大音量が出力されるのを防ぐため、音量が大きい状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに音量が自動的に調節されます。)	必要に応じて、音量を上げてください (8 ページ)。
サラウンド感が得られない	ステレオ再生が選ばれている。	サラウンド再生に切り換えてください (9 ページ)。
	音量が小さい。	音量を上げてください (8 ページ)。
	テレビ、または再生機器が常に 2 チャンネル (PCM など) で出力するように設定されている。	テレビ、または再生機器の音声出力設定を AAC、Bitstream (ビットストリーム) 等へ変更してください。
	テレビのスピーカーからも音が出ている。	テレビの音量を最小にしてください (6 ページ)。
	視聴位置が本機に極端に近過ぎる。	ある程度、離れた位置で視聴ください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	該当機器を本機から離してください。

◆ リモコン操作

症状	原因	対策
本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください (2 ページ)。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください (2 ページ)。
	本機のリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。

テレビリモコンを学習させることができない	学習させたいボタンを押している時間が短すぎる。	1 秒以上押し続けて 1 秒以上離す操作を 2 ~ 3 回繰り返してください (12 ページ)。
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。(赤外線リモコンでも対応していない場合があります。)	この場合は学習機能を利用できません。本機のリモコンで操作してください。
	テレビのリモコンを適切な位置で操作していない。	適切な位置で操作してください (12 ページ)。
	テレビのリモコンの乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	本機のリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。
テレビリモコンで本機の音量を上げると、テレビから音声が出力される (学習機能使用時)	テレビ画面の光がリモコン信号を妨害している。	テレビの電源を切った状態で、テレビのリモコン信号を本機に学習させてください (12 ページ)。
	テレビの音声出力が有効になっている。	テレビ側の設定で、テレビ (内蔵スピーカー) の音声出力を無効にしてください。テレビに該当する設定がない場合は、以下の方法をお試しください。 - お手持ちのヘッドホン、変換プラグなどをテレビのヘッドホン/イヤホン端子に接続する。 - テレビの音量を最小にする。
本機とテレビの電源が逆になる (例：本機の電源を入れるとテレビの電源が切れる) (学習機能使用時)	テレビリモコンを本機に学習させた際に、テレビの電源が入っていた。	テレビ本体の電源ボタンと本機前面の (電源) ボタンで両方の電源を入れてから、テレビリモコンの電源ボタンでテレビと本機の電源を切ってください。

◆ Bluetooth

症状	原因	対策
本機と対応機器がペアリングできない	本機の入力が Bluetooth 以外になっている。	入力を Bluetooth にしてください。
	対応機器が A2DP に対応していない。	A2DP に対応した機器とペアリングしてください。
	Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「0000」以外になっている。	パスキーが「0000」の機器をご使用ください。
	本機と対応機器の距離が離れすぎている。	対応機器を本機に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線 LAN 機器など)がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。 Bluetooth 対応機器が無線 LAN 機能も搭載している場合は、無線 LAN 機能をオフにし、Bluetooth 機能のみをオンにしてください。
Bluetooth 接続ができない	別の Bluetooth 対応機器が既に接続されている。	接続中の機器をいったん切断してから、ペアリングしてください。
	9台以上の対応機器とペアリングしたために、ペアリング情報が削除された。	再度ペアリングしてください。 本機は最大 8 台の対応機器とペアリングが可能ですが、9 台目を登録すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
	Bluetooth 接続ができない (BLUETOOTH ランプが速く点滅し続けている)	電源プラグをコンセントから抜き、修理をご相談センターにお問い合わせください。

音が出ない、または音が途切れる	対応機器との Bluetooth が切断された。	接続し直してください (10 ページ)。
	本機の入力が Bluetooth 以外になっている。	入力を Bluetooth にしてください。
	本機と対応機器の距離が離れすぎている。	対応機器を本機に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線 LAN 機器など)がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。 Bluetooth 対応機器が無線 LAN 機能も搭載している場合は、無線 LAN 機能をオフにし、Bluetooth 機能のみをオンにしてください。
	対応機器が Bluetooth 信号を本機に送っていない。	対応機器の音声出力設定や、接続の設定を変更してください。
	対応機器側での再生操作をしていない。	対応機器側で再生してください。
	対応機器の音量が最小になっている。	対応機器の音量を上げてください。

主な仕様

項目		仕様
アンプ部	実用最大出力 (非同時駆動、JEITA)	フロント L/R 30W x 2ch サブウーファー 60W
	形式	密閉型
フロント L/R 部	スピーカーユニット	4 x 10cm コーン 非防磁型 x 2
	再生周波数帯域	170Hz ~ 23kHz
	インピーダンス	6Ω
サブウーファー部	形式	バスレフ型
	スピーカーユニット	7.5cm コーン 非防磁型 x 2
	再生周波数帯域	50Hz ~ 170Hz
	インピーダンス	3Ω
デコーダー部	対応音声信号	PCM (2ch) Dolby Digital (5.1ch まで) MPEG2 AAC (5.1ch まで)
入力端子	光デジタル (光)	1 (TV)
	同軸デジタル (同軸)	1 (BD/DVD)
	アナログ (3.5mm ステレオミニ)	1 (アナログ)
Bluetooth	Bluetooth バージョン	Ver2.1+EDR
	対応プロファイル	A2DP、SPP
	対応コーデック	SBC、MPEG4 AAC
	無線出力	Bluetooth Class2
	最大通信距離	10m (障害物が無いこと)
	対応コンテンツ保護	SCMS-T 方式

総合	電源電圧	AC 100V、50/60Hz
	消費電力	22W
	待機消費電力	0.4W
	Bluetooth スタンバイ時消費電力	0.5W
	本機の上に設置可能なテレビ	以下の条件を満たす薄型テレビ 質量：30Kg 以下 脚部の幅：545mm 以下 奥行き：280mm 以下 画面：42 インチ以下
	寸法 (幅 x 高さ x 奥行き)	546 x 65 x 300mm
	質量	6.1kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。



本機はヤマハ独自のバーチャルサラウンド技術「AIR SURROUND XTREME」を搭載しています。定位感に優れた高品位な 7.1ch サラウンド再生を本機 1 台のみで実現します。



Bluetooth は、Bluetooth SIG の商標登録であり、ヤマハはライセンスに基づき使用しています。



ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



AAC ロゴマークは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

「ブルーレイ™」および「ブルーレイディスク™」は、ブルーレイディスクアソシエーションの商標です。

Bluetooth について

- Bluetooth とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

本機の無線方式について



「2.4」.....2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」.....変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）
「1」.....想定干渉距離が 10 m 以内



.....全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

Bluetooth 通信の取り扱いについて

- Bluetooth 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth 対応機器は同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本書はすべての Bluetooth 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本製品は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

安全上のご注意



ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

 「ご注意ください」という注意喚起を示します。
 「~しないでください」という「禁止」を示します。
 「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 **警告** この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がる。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。
- 異常に高温になる。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

- 電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。
 - ステープルで止めない。
 - 加工をしない。
 - 熱器具には近づけない。
 - 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



禁止

付属の電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。

キャビネットは絶対に開けない。
キャビネットにネジ穴などを開けない。
火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
 - じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
 - 仰向けや横倒しには設置しない。
 - 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- (本機の周囲にテレビを除いて左右 5cm、上 5cm、背面 5cm 以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



医療機関の屋内など、医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。



心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用する。
本機が発する電波により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。
傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上のご注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠️ 注意

電源 / 電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。




電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱、および火災の原因になります。



本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。
本機の  (電源) ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

電池



電池は極性表示（プラス+とマイナス-）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。



指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例、または取り決めに従って廃棄する。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下して、けがの原因になります。



縦置きや上下逆に設置しない。
故障やけがの原因となることがあります。



直射日光の当たる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばや車内など）には設置しない。本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害を与えるおそれがあります。また、本機は非防磁のスピーカーを使用しています。他の機器や磁気記憶装置に障害を与えるおそれがあります。



必ず実行

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。



禁止

転倒防止ワイヤーやネジなどでテレビを本機に固定しない。テレビを本機に固定した場合、地震などにより、テレビとともに本機がラックから落下する恐れがあります。

移動



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意



禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



禁止

環境温度が急激に変化する場所では使用しない。本機に結露が発生することがあります。正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



禁止

ポート（開口部）には手を入れない。感電やけがの原因となることがあります。



必ず実行

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因になります。



禁止

業務用機器とは接続しない。デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン



禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。感電の原因になります。



禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。故障の原因になります。



禁止

下記のような場所に置かない。
● 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
● 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ。
● 極端に寒いところ
● ほこりの多いところ
火災や故障の原因になります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。感電の原因になります。



禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

音を楽しむエチケット

- ・ 楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。
- ・ 適当な音量を心がけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。
- ・ 音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通)  0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。

TEL (053)460-3409

受付:月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通)  0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。

TEL (053)460-4830

受付:月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03)5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06)6465-0367

修理品お持ち込み窓口

受付:月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
※ お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサルシティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

* 名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的な摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチリレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!



愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

